

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：吉田 淳

事務局：愛知教育大学理科学教育講座 内

URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2008.10.15

NO.189
.....

科学教育研究レター



目 次

- | | |
|--|---|
| ■ 総会
第 32 回定時総会報告.....2 | ■ 研究会・支部だより
平成 20 年度
第 1 回日本科学教育学会研究会・
北海道支部会のご案内 9
第 2 回日本科学教育学会研究会・
九州沖縄支部会のご案内 10 |
| ■ 理事会だより
第 231 回理事会報告.....3
第 232 回理事会報告 (案).....5
第 233 回理事会報告 (案).....6
第 32 回顧問会・評議員会・
支部役員会合同会議報告 7 | ■ 編集委員会だより.....10 |
| ■ 年会
第 32 回年会報告.....7
第 33 回年会案内 (第 1 次).....8 | ■ 会員の声11 |
| ■ 若手の会
若手の会開催報告.....8 | ■ 広報委員会からのお知らせ.....12 |

日 時 2008 年 8 月 23 日 (土) 13:00 ~ 14:00
 会 場 岡山理科大学 25 号館 8 階

次 第

1. 開会の辞 (岩崎秀樹 副会長)
2. 第 32 回年会実行委員会事務局長挨拶 (宮地 功 実行委員長)
3. 会長挨拶 (小川正賢 会長)
4. 議長選出
 定款第 26 条により小川正賢会長を議長に選出した。
5. 議事録署名人委任 (小川正賢 会長)
 議事録署名人を宮地 功 (岡山理科大学)、余田義彦 (同志社女子大学) の両会員に委任することを拍手をもって承認した。
 総会出席者 83 名、委任状 84 通で定時総会成立を確認した。
6. 審議 (議長 小川正賢 会長)
 - 1) 第 1 号議案の提案 (稲垣成哲・益子典文 理事)
 2007 年事業報告書及び 2007 年収支決算書の説明と提案が行われた。
 - 2) 監査報告 (松原静郎 監事)
 監査の結果、学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨の報告があり、第 1 号議案は承認された。
 - 3) 第 2 号議案の提案 (稲垣成哲・益子典文 理事)
 2008 年度事業計画書及び 2008 年度予算書 (案) の説明と提案が行われ、第 2 号議案は承認された。
 - 4) 第 3 号議案の提案 (稲垣成哲 理事)
 役員選出の説明と提案が行われ、第 3 号議案は承認された。
7. 新会長挨拶 (吉田 淳 新会長)
8. 表彰
 - 1) 経過報告
 学会賞選考委員会での選考経過の報告が行われた。 (小倉 康 理事)
 - 2) 表彰 (小川正賢 会長)
 - 学術賞
 ・三宅征夫 (国立教育政策研究所)
 - 論文賞
 ・三宅志穂 (高知大学)、稲垣成哲 (神戸大学)、野上智行 (神戸大学)
 ・山口悦司 (宮崎大学)、中原 淳 (東京大学)、望月俊男 (専修大学)
 - 年会発表賞
 ・奥山英登 (旭川市旭山動物園)
 ・隅田 学 (愛媛大学)
9. 次年度第 33 回年会実行委員長挨拶 (余田義彦 同志社女子大学教授)
10. 退任挨拶 (小川正賢 会長)
11. 閉会の辞 (岩崎秀樹 副会長)
 (記録：稲垣成哲 理事)

議事録署名人

日本科学教育学会第 32 回定時総会の議事が、上記のように執り行われたことが間違いないことを証します。

宮地 功 (第 32 回年会実行委員会委員長) 余田義彦 (第 33 回年会実行委員会委員長)

日本科学教育学会第 231 回理事会報告

(要点のみ参考掲載)

日時 2008 年 6 月 21 日 (土) 14:00 ~ 17:00
 会場 (株) 内田洋行潮見オフィス 8 F 会議室
 出席者 会長：小川 (正)
 理事：磯田、稲垣、岩崎、大高、小川 (義)、小倉、垣花、加藤、
 小林、猿田、丹沢、中山、東原、益子、村瀬、吉田
 オブザーバー：佐伯昭彦 (年会企画委員長)

1. 議事要録 (案) の承認
 - 第 230 回理事会議事要録 (案) が承認された。
2. 第 231 回理事会までの電子会議による審議事項
 - 事務局からの 4 月 14 日に発議された筑波大学主催の第 3 回「科学の芽」賞への後援名義使用申請について、審議の結果、承認された (4 月 18 日)。
 - 事務局からの発議により、日本科学技術振興財団 (JST) の「青少年のための科学の祭典 2008」への後援名義使用申請について、審議の結果、承認され (5 月 19 日)、対応がなされた (5 月 20 日)。
3. 報告事項
 - 1) 庶務・事務局
 - 学術著作権協会より「学術著作権協会ホームページ (英文) 掲載事項について」という文書による依頼を受け付けた (3 月 23 日)。
 - 選挙管理委員会委員の委嘱状を吉村忠興志会員に発送した (3 月 24 日)。
 - 科学技術振興機構より、「学協会の会議開催予定・発行刊行物」に関する調査への協力依頼があり、回答を行った (3 月 31 日)。
 - 国立情報学研究所の NII-ELS 担当から平成 19 年度分論文情報ナビゲータ (CiNii) の著作権使用料に関する「債主登録依頼書」の確認依頼について対応を行った (4 月 2 日)。
 - 日本地球惑星科学連合より「日本地球惑星科学連合 2008 年大会」の開催通知が届いた (4 月 2 日)。
 - 日本学術振興会より「第 5 回 (平成 20 年度) 日本学術振興会賞受賞候補の推薦について」の文書が届き、同日、学会 HP に掲載した (4 月 14 日)。
 - 筑波大学より、朝永振一郎記念第 3 回「科学の芽」賞の後援依頼を受け付けた (4 月 14 日)。
 - 科学技術振興機構より「21 世紀の科学技術リテラシー第 1 回シンポジウム」開催案内および「社会技術研究開発事業の研究開発プロジェクト等の平成 20 年度の提案募集」開始案内を受け付け、同日、学会 HP に掲載した (4 月 23 日)。
 - 日本学術会議・学協会の公益機能検討等小分科会より、内閣府公益認定等委員会が公益認定等ガイドライン等を公表した旨の案内があった (4 月 25 日)。
 - 日本地学教育学会より「平成 20 年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第 62 回全国大会」について後援依頼があったが、他学協会が主催する定例の全国大会等への後援団体とならないという慣例に基づいて後援しないこととして対応した (5 月 12 日)。
 - 第 32 回年会への後援名義使用許可願いを文部科学省に申請した (5 月 13 日)。
 - 日本科学技術振興財団より「青少年のための科学の祭典 2008」への後援依頼を受け付けた (5 月 14 日)。
 - 日本科学技術振興財団より、学会が後援した「青少年のための科学の祭典 2007」の実施報告書を受け付けた (5 月 14 日)。
 - 文部科学省文部科学省研究振興局より、「平成 21 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について」に関する依頼状を受け付けた (5 月 19 日)。
 - 日本科学未来館より、「平成 20 年度サイエンスコミュニケーター研修講座」に関する案内を受け付け (5 月 22 日)、学会 HP に掲載した (5 月 23 日)。
 - 2) 経理・会員
 - 入会希望者 (～6 月 2 日) の審査について [小林、益子、事務局]
 - 事務局からの発議により、3 月 26 日までに入会を希望した 8 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された (4 月 14 日)。
 - 事務局からの発議により、5 月 22 日までに入会を希望した 23 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された (6 月 2 日)。

事務局からの発議により、6月9日までに入会を希望した12名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(6月13日)。

事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された12名が正式に入会となった(5月31日)。

○会費請求および海外会員への会費請求方法を変更したことについて説明があった。

○平成19年度決算の暫定版が提示された。

○7月に開催する監査会の日程について報告があった。

3) 機関誌編集

○編集状況

(1) 決定掲載論文

・第32巻第1号: 7編(研究論文4編、実践論文1編(旧システム)、資料1編、プラザ1編)

・第32巻第2号: 5編(研究論文5編)

(2) 審査中論文 旧システム 0編、新システム 13編

(3) 投稿論文数合計、前年度との比較

2006年6月から2007年5月まで 和文 52編 英文 8編 合計 60編

2007年6月から2008年5月まで 和文 50編 英文 7編 合計 57編

(プラス: 招待論文 和文4編、英文1編)

掲載決定率 2006年6月から2007年5月まで 56%

2007年6月から2008年5月まで 60%

4) 国際

○第32回年会において国際交流企画セッションを設けることが報告された。

5) 支部

○2008年度各支部新役員の推薦を依頼した。

6) 広報

○科学教育研究レター第187号を4月15日付けで、第188号を6月15日付けで学会HPに掲載した。

7) 年会企画

○第32回年会企画について報告があった。

8) 学会賞

○5月22日の締め切りまでに、学術賞1件、論文賞3件、奨励賞1件、計5件の学会賞候補者推薦を受け付けた。メールにて審議を進めるとともに、6月21日12~13時に委員会を開催した。

9) 研究会

○第4回研究会が6月14日に静岡大学において開催されたことが報告された。

10) 学会IT化

○フィーグ社で管理している編集システムの使用が終了した旨、報告があった。ただし、年会受付システムについては継続して行う。

11) 選挙管理委員会

○2008年~2011年度の役員選挙公報と投票用紙を会員に送付した(4月25日)。

○同役員選挙公報と投票用紙の誤植について訂正のハガキを会員に送付するとともに、学会HPにおいて訂正の告知をした(4月30日)。

○同役員選挙の開票作業を事務支局において実施した(6月8日)。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者4名を承認した。

*現在会員数1,275名 年度末退会者21名を含む。

(正会員1,199名、学生会員62名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員10名)

2) 選挙管理委員会から役員選挙について以下の報告があり、承認された。

投票総数 321票(無効票 21票)

会長候補者1名、理事候補者8名、監事候補者1名を選出した。

3) 次期役員選出について

○選挙による会長候補者1名、理事候補者8名、監事候補者1名として以下の会員を推薦することとした。

会長候補者: 吉田 淳

理事候補者: 熊野善介、佐伯昭彦、土田 理、荻原 彰、藤岡達也、美馬のゆり、
吉岡亮衛、渡辺政隆

監事候補者: 鶴岡義彦

○会長推薦理事として以下の2名を推薦することとした。

理事候補者(任期4年): 坂谷内勝、吉川 厚

4) 支部役員および評議員の候補者が提案され、所属による異動等の確認・修正をすることで、了承された。

5) 第32回定時総会の議事案件を一部修正することで承認した。

6) 学会賞の選考結果が報告され、学会賞選考委員会で最終的な候補者を決定し、理事会で審議することとなった。

7) 機関誌編集について、編集委員会規定と査読規定の改訂案が示され、審議の結果、承認された。また、著作権譲渡について、継続審議することとした。

8) 広報について、「学会通信」の原案が示され、審議の結果、承認された。また、各会務担当理事が、広報委員会と各会務との連絡調整を行う広報委員を推薦することとした。

次回以降の理事会予定

第 232 回：2008 年 8 月 22 日（金）17 時 45 分から 18 時 45 分 岡山理科大学

第 233 回：2008 年 8 月 24 日（日）12 時 15 分から 13 時 15 分 岡山理科大学

日本科学教育学会第 232 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2008 年 8 月 22 日（金） 17:45 ～ 18:45

会 場 岡山理科大学 11 号館 8 階会議室

出席者 会長：小川（正）

理事：稲垣、岩崎、大高、小川（義）、小倉、垣花、加藤、
中山、益子、吉田

監事：松原

オブザーバー：佐伯昭彦（年会企画委員長）

1. 議事要録（案）の承認

○第 231 回理事会議事要録（案）が承認された。

2. 第 232 回理事会までの電子会議による審議事項

○学会賞担当理事より 6 月 24 日に発議された学会賞の承認の是非について、Web による審議の結果、承認された（7 月 2 日）。

○経理・会員担当理事より 7 月 21 日に発議された 2007 年度決算・2008 年度予算案の承認の是非について、Web による審議の結果、承認された（7 月 23 日）。

○事務局より 7 月 24 日に発議された四国支部役員訂正の承認の是非について、Web による審議の結果、承認された（7 月 28 日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○埼玉大学図書館より「科教研報」掲載論文の機関リポジトリに関する問い合わせが編集事務局にあり（7 月 1 日）、学会誌と同様、著作権の取り扱いについて理事会で審議中である旨、回答した（7 月 8 日）。

○（財）博報児童教育振興会より「第 4 回ことばと教育研究助成事業」への応募案内を受け付け（7 月 8 日）、同日、学会 HP に掲載した。

○2008 年度評議員および支部長に委嘱状を発送した（7 月 17 日）。

○（財）中山隼雄科学技術文化財団より研究助成費募集の案内を受け付け（7 月 23 日）、同日、学会 HP に掲載した。

2) 経理・会員

○入会希望者（～8 月 11 日）の Web 審査について

事務局からの発議により、6 月 25 日までに入会を希望した 12 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（6 月 30 日）。

事務局からの発議により、7 月 29 日までに入会を希望した 12 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（8 月 5 日）。

事務局からの発議により、8 月 8 日までに入会を希望した 2 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（8 月 11 日）。

事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された 40 名が正式に入会となった（7 月 31 日）。

3) 広報

○国立国会図書館より、「科教研報」の ISSN（1882-4684）割当てが通知された（7 月 15 日）。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者 8 名を承認した。

*現在会員数 1,313 名 年度末退会者 47 名を含む。

(正会員 1,229 名、学生会員 70 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名、名誉会員 10 名)

2) 顧問について

○会長より、次期顧問(任期は会長の任期に連動)の人選については、新体制で協議すると
の提案がなされ、了承された。

3) 第 32 回定時総会の持ち方について、第 231 回理事会で承認済みの第 1 号議案～3 号議案の
最終的な確認が行われ、次第なども含めて了承された。

4) 第 32 回顧問会・評議員会・支部役員会合同会議の議事等が提案され、了承された。

次回理事会予定

第 233 回：2008 年 8 月 24 日(日) 12:15 から 13:15 岡山理科大学 25 号館 5 階会議室

日本科学教育学会第 233 回理事会報告(案)

(議事要録承認前。要点のみ参考掲載)

日 時 2008 年 8 月 24 日(日) 12:15 ～ 13:15

会 場 岡山理科大学 25 号館 5 階会議室

出席者 会長：吉田

理事：稲垣、岩崎、荻原、小倉、加藤、熊野、佐伯、丹沢、
土田、中山、美馬、吉岡、吉川、渡辺

監事：松原、鶴岡

1. 議事要録(案)の承認

○第 232 回理事会議事要録(案)については、次回第 234 回理事会に提案し、承認を求めると
とした。

2. 報告事項

1) 新任役員の紹介がされた。

(1) 会長	吉田 淳	愛知教育大学教授
(2) 理事	荻原 彰	三重大学教育学部教授
	熊野善介	静岡大学教育学部教授
	佐伯昭彦	金沢工業高等専門学校教授
	坂谷内勝	国立教育政策研究所総括研究官
	土田 理	鹿児島大学教育学部教授
	藤岡達也	上越教育大学教授
	美馬のゆり	公立はこだて未来大学教授
	吉岡亮衛	国立教育政策研究所総括研究官
	吉川 厚	(株)教育測定研究所/東京工業大学連携教授
	渡辺政隆	科学技術振興機構科学コミュニケーションスーパーバイザー
(3) 監事	鶴岡義彦	千葉大学教育学部教授

2) その他

広報担当から各会務における担当広報委員の推薦について依頼があった。

3. 協議事項

1) 新年度の活動方針及び活動計画について

新会長より、新体制への移行に伴い新年度の活動方針及び活動計画について、今後、継続
審議を行いつつ、その方向性を固めていくという趣旨の提案がなされ、了承された。

2) 新年度理事の会務分担について

会長より、資料に基づいて 2008 年度における各理事の会務担当が提案され、了承された。

3) 顧問について

2008 年度の顧問については、2008 年 8 月末を目処に、各理事からの推薦に基づいて、会長
が候補をしばることが提案され、了承された。

4) その他

新年度の理事会の持ち方について、原則的には、従来の開催日程と同様な計画とすること
が提案され、了承された。ただし、具体的な日程の決定については、後日、決定すること
とした。

次回理事会予定

第 234 回：2008 年 11 月 15 日(土) 14 時から 17 時 内田洋行(株)新川オフィス B1 会議室



日時：2008年8月23日（土）11:00～12:00

会場：岡山理科大学 25 号館 4 階（H 会場）

第 32 回顧問会・評議員会・支部役員会合同会議は、顧問（2 名）、評議員（4 名）、支部役員（2 名）、役員（11 名）、年会企画委員長（1 名）が出席して開催された。小川会長の挨拶に続いて、第 32 回年会実行委員会委員長の岡山理科大学の宮地 功会員から歓迎の挨拶があった。その後、稲垣理事（庶務）からの事業報告、事業計画等についての説明が行われた。また、小川会長から事務局体制の変更に伴う現状と課題、会長在任期間の総括等がなされた。参会者からは、学会運営についての質問や要望等の意見が出された。

年 会

第 32 回年会 開催報告

日本科学教育学会第 32 回年会は、2008 年 8 月 22 日（金）～24 日（日）の 3 日間、岡山理科大学 40 周年記念館において、「転換期の科学教育：これからの科学的リテラシー」という年会テーマのもとで開催されました。

参加者数は当初の予想を上まわる 359 名（会員 247 人、非会員 112 人）を数えました。科学教育に係る研究分野に取り組む会員が集い、学会企画シンポジウム、実行委員会企画シンポジウム、特別セッション、学会企画課題研究、自主企画課題研究、一般研究発表、インタラクティブセッション、ワークショップなど、199 件の研究発表が行われました。相互に最新の成果を持ち寄って、活発な質疑応答が行われました。特に、シンポジウム「科学的リテラシー向上へー科学教育学会に求められるもの」と「理科教育改革支援－SSISS の狙いと戦略－」では、活発な議論が続きました。年会テーマのもと、さまざまな視点から問題提起や議論が行われ、年會を成功裏に終了することができました。

初めての試みとして、初日にウエルカムパーティを開催したところ、殊の外好評で、56 人の参加者がありました。岡山理科大学 11 号館 8 階ラウンジにて開催されました。潤いた口を潤しながら、アイデアを広げたり、考えを深めたり、懇親を深めたり、多くの人と交流をしていただきました。この年會で発表していただくために、昨年か宮地研究室とテレビ会議による国際交流をしている、中国東北師範大学伝媒科学学院長の王 以寧教授を招待し、この席で挨拶していただきました。

2 日目の懇親会には、95 人の参加者がありました。岡山の景勝地であります後樂園と岡山城が望める岡山プラザホテルの延養の間にて開催されました。会場の雰囲気が大好評で、料理に舌鼓を打ち、お互いに飲み交わし、時間の過ぎるのも忘れて、予定の 2 時間を超えて楽しく歓談されました。

年會の運営について、気がついたことを述べます。事前申し込みが少ないので、受付の混雑が予想されました。これを解消するために、事前申し込み者、共同発表者を含めたすべての人に整理番号を付けて、連絡橋の左右に氏名と整理番号を掲示して、受付で整理番号を伝えてもらうようにしたことは、うまくいき、受付をスムーズに通過していただけました。受付までの案内もスムーズに行き、混乱もなく会場まで来ていただけたと思います。

実行委員会を悩ましたのは、発表申し込み締め切り後の訂正原稿が五月雨式に届き、その差し替えだけでなく、そのメールへの回答でした。日本科学教育学会と教育システム情報学会の中国支部長を兼ねていた関係で、両方の中国支部研究発表会が 6 月の土曜日に 2 回続けて開催され、総会の資料作成、会場設営、自分の研究発表の準備、指導している人のこれらの研究発表会への発表原稿のチェックなどに追われましたので、忙しさが倍加しました。そのためメールへの回答も滞るようになりました。忙しさに取り紛れて差し替えたことを知らせる回答をしない場合にお叱りを受けた時は、何と云えばいいのか言葉では表すことができません。また、学会指定の形式を守らない原稿が多く、そのためにメールのやりとりが多くなったことも、更に作業を増加させました。シンポジウム、学会企画課題研究、自主企画課題研究の一部には締め切りを過ぎても原稿が集まらないものがあり、依頼などのメールを送る必要がありました。これらの作業が増える

だけでなく、目次がなかなか確定しなくて、講演論文集の完成が次々に延びました。次回の年会からは、これらのマナーを守ることを徹底するように会員に広報することが必要であると痛感しました。

年会開催に当たり、多大なご協賛をいただきました財団、企業、団体には、助成、寄付、広告、展示などに対しまして、心よりお礼申し上げます。年会の運営についていろいろと支援いただきました、年会企画委員会、特に、委員長の佐伯昭彦先生と担当理事の加藤 浩先生にお礼を申し上げます。更に、年会が滞りなく終了したのは、各セッションの座長、司会をしていただきました方々とそれを支えた会員各位の協力の賜であると思います。ありがとうございました。年会開催に当たりましては岡山理科大学、加計学園本部事務局など多方面からの理解と協力を得て、補助金もいただきましたことに対しまして、謝辞を申し上げます。精力的に年会運営に当たってくれた学生諸君に感謝します。暑い季節に熱い議論を交わすために、晴れの国、吉備の国、果物王国に参集いただきました会員の皆様にお礼を申し上げます。

この第32回年会が、日本科学教育学会の今後の発展、岡山近隣の科学教育全体の振興、皆様の教育研究に少しでも貢献できたのであれば、実行委員会として、これに勝つことはありません。

(日本科学教育学会第32回年会実行委員会委員長 宮地 功)



第 33 回年会案内 (第 1 次)

1. 期日：2009年8月25日(火)～26日(水)
2. 会場：同志社女子大学、今出川キャンパス純正館
(〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入)
・アクセス方法
JR「京都」駅から地下鉄烏丸線(国際会館行)に乗車して「今出川」駅で下車、3番出口を上がって東へ徒歩5分。
<http://www.dwc.doshisha.ac.jp/access/access02.html>
3. 連絡先：〒610-0395 京都府京田辺市興戸
同志社女子大学学芸学部情報メディア学科
余田義彦 E-mail :yoden@myad.jp

若手の会

若手の会開催報告

若手の会では、「次世代の科学・技術・情報リテラシー育成のための研究の可能性を探る」と題して、ラウンドテーブルを行ないました。

ラウンドテーブルの企画意図としましては、2008年3月に小・中学校の学習指導要領の改訂が行われ、また、同月には「日本人の科学的リテラシー」が提示されるなど、日本人としての科学に関する基礎的知識や理解の理想像が構築されつつあることを踏まえ、次世代の科学的リテラ

シーに関する意見交換を行い、研究のシーズとニーズを会員間で共有することを狙いとしました。研究のシーズとニーズがどこまで共有でき、成果に結びついたのかについては、今後の皆様の研究を待たねばなりません、各テーマでの主要な議論のみ、ここにご紹介いたします。

●情報リテラシー（担当：加納）

現代における情報リテラシーの諸問題から、これまでの情報リテラシー教育の変遷について議論した。昨今のネットいじめや有害サイトに対する対策や教育が追いつかない背景として、ペアレンタルコントロールの設定がわからない保護者、情報教育やオンライン上のトラブルを情報担当者に任せきりになっている学校の実態が浮き彫りとなった。

教科として位置づけられていない小・中学校では、すべての教員が、情報リテラシー教育に携わらなければいけないにもかかわらず、現状では指導できる教員は限られている。

対策として、情報リテラシーに関する教師教育の推進、「情報」を学んでこなかった大人世代への再教育が今後の課題として指摘された。

●社会連携型科学教育における科学的リテラシーの育成（担当：三宅）

インフォーマルな教育を観点にして、科学リテラシーに関する議論を行った。サブテーマとして、「PUS (Public Understanding of Science) の推進、教育文化施設における科学教育活動、科学と社会の連携に関する諸外国の事例、サイエンス・コミュニケーション、博学連携など学校や博物館での取り組み」を設定した。

このサブテーマの中で、博物館（動物園を含む）における教育の事例や、問題点について話し合われた。たとえば、博物館における子ども向け活動と大人向け活動の事例紹介、それらの活動で習得させたい事の違いは何かという意見交換があった。今後、インフォーマルな場面における科学リテラシーについて、詳細な検討の必要性が提案された。

●理科教育における科学的リテラシーの育成（担当：松浦）

「研究や指導に際して、新学習指導要領をふまえながら科学的リテラシーをどのように具現化し、取り組んでいく必要があるのか？」という問題意識のもと参加者全員が発言し、意見交換を行った。

また、参加者の実践や研究から得られた知見に基づく意見が述べられ、主に、理科の文脈に沿った言語力の育成が必要であること、理科が好きではない子どもへの配慮が必要であることなどについて議論を深めた。

（補足）「数学的リテラシー」に関してもテーブルを予定をしていますが、参加者が集まらず開催に至りませんでした。

研究会・支部だより

平成 20 年度開催予定の科学教育学会「研究会」（第 1 回・2 回）について、下記の通り案内いたします。

平成 20 年度第 1 回日本科学教育学会研究会・北海道支部会のご案内

[テーマ] 明日を拓く科学教育

[主催] 日本科学教育学会北海道支部

[日時] 平成 20 年 11 月 8 日（土）10：00～17：00（時間の詳細は未定）

[会場] 北海道教育大学函館校

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。

[参加費] 学会員は無料、学会員でない方は 500 円です。

[担当・連絡先]

北海道教育大学函館校 阿部二郎

〒040-8567 函館市八幡町 1-2

Tel & Fax : 0138 (44) 4309

E-mail : jiro@hak.hokkyodai.ac.jp

平成 20 年度第 2 回日本科学教育学会研究会・九州沖縄支部会のご案内

- [テーマ] 科学教育の進歩と教員養成
 [主催] 日本科学教育学会九州沖縄支部
 [日時] 平成 20 年 11 月 15 日 (土) 10:00 ~ 16:00 (予定)
 [会場] 長崎大学教育学部 (〒 852-8521 長崎市文教町 1-14)
 [参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。
 [参加費] 学会員は無料、学会員でない方は 500 円です。
 [担当・連絡先]

長崎大学教育学部 山路裕昭
 〒 852-8521 長崎市文教町 1-14
 Tel & Fax 095 (819) 2339
 E-mail : yamaji@nagasaki-u.ac.jp

第 3 回以降の研究会の予定

- 第 3 回南関東支部：平成 21 年 3 月末から 4 月上旬 (東京学芸大学)
 第 4 回中国四国支部：平成 21 年 5 月 23 日 (土) (鳥取大学)
 第 5 回東海支部：平成 21 年 5 月から 6 月 (岐阜大学)

編集委員会だより

平成 20 年 8 月 22 日 (金) 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分、平成 20 年度第 1 回編集委員会が岡山理科大学において開催されました。まず、平成 19 年度第 5 回編集委員会議事録の確認と編集状況の

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況 (平成 20 年 8 月 15 日 現在)

	新規投稿 論文数 (篇)		掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数 (掲載号)		掲載不可 論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載 不可	辞退
2007 年 9 月			1 (31-4)			1 (31-4)	2	
10 月	1	1	2 (31-4)	0	1 (31-4)		2	2
11 月	1	1	8 (31-4)	0	1 (31-4)		1	1
12 月	6	1	4 (31-4)	0	2 (31-4)		1	2
2008 年 1 月	2	2	3 (32-1)	0				1
2 月	4	1	1 (32-1)	0			2	
3 月	4	0	2 (32-1)	0			2	1
4 月	3	0	1 (32-1) 2 (32-2)	0 0			2	0
5 月	4	0	2 (32-2)	0			1	0
6 月	1	1	3 (32-2) 1 (32-3)	0 0			2	0
7 月	1	0	3 (32-3)	0			2	0
8 月	1	0	1 (32-3)	0			0	0

報告が行われました。新規投稿論文(2008. 6. 18～2008. 8. 15)が3篇(和文2篇、英文1篇)、査読中論文が7篇(内訳: 3篇: 1回目、3篇: 再投稿待ち、1篇: 2回目)、掲載決定論文が12篇(内訳: 研究論文11編、資料1篇)、32-2号に7篇で近日中に発刊されます。32-3号に5篇が決まっています。

続いて、新年度での編集委員会の構成について、新年度の編集委員会は理事会終了後に正式に決まることですが、新編集委員長は長崎栄三、副委員長は小川義和、鈴木栄幸、編集担当理事が中山 迅、土田 理といった構成になる予定であることが報告されました(8月22日の理事会で決定いたしました)。編集委員については新編集委員長のもと、できるだけ早く決めることが報告され、決まるまでは今までの委員の方々が編集業務を行うことになることが説明されました。

最後に、すでに編集委員の全員にメール審議で確認されていることですが、編集委員会規則の変更点について説明がされました。

最近1年間の学会誌の編集状況は左頁の表の通りです。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。編集委員会に対するご意見等がございましたらお知らせ下さい。

会員の声

第32回定期総会において学会賞を受賞された山口先生に、本欄へ寄稿していただきました。

論文賞を受賞して

山口悦司(宮崎大学)

このたびは、「おやこ de サイエンス: 家庭における科学の学習環境の充実を支援する教育プログラム」という論文で、共同研究者の中原 淳(東京大学)さん、望月俊男(専修大学)さんと一緒に論文賞を受賞させて頂きました。どうもありがとうございました。

この研究の内容については、受賞対象の論文(山口ら、2006)をお読みください。関連論文およびWebサイト(BEAT、2006; 中原ら、2006、2007)を併せてお読みになりますと、研究の全体をより詳しくお知り頂けると思います。

本稿では、研究開始時のエピソードと、研究終了後に私(山口)が考えていることをご紹介します。

1. 研究開始時のエピソード

私たちの研究は、株式会社ベネッセコーポレーションの寄附により東京大学大学院情報学環が開設した「ベネッセ先端教育技術学講座(通称BEAT)」(BEAT、2008)のプロジェクトとして開始しました。BEATの目的は、携帯電話などのモバイル・ユビキタス技術について、学習支援のための新しい利用形態を社会に提案することでした。当時、BEATでは、複数のプロジェクトが同時に開始していました。私たちのプロジェクトの使命は、科学教育(特に理科)の分野において成果を上げることでした。

プロジェクトは、リーダーの中原さん、コアメンバーの望月さん、西森年寿(東京大学)さん、そして山口の4名で、2004年の4月にスタートしました。最初の1年目は、プロジェクトのコンセプトメイキングに費やしました。「モバイル・ユビキタス技術と科学教育の新しい関係性」を考えるわけですから、これがなかなか大変でした。最初からしばらくは、到達地点がまったく見えない状況が続きました。「おやこ de サイエンス」というプロジェクトの名称も1年目の最後に決まったぐらいです。しかも、紆余曲折の連続でした。1年目の途中で、なかなかよいコンセプトにたどり着いたことがあります。しかし、BEAT全体のリーダーである山内祐平(東京大学)さんの「社会的意義が足りない」というコメントを受けて、また最初からコンセプトを練り直したこともありました。

電子メールのやり取り、テレビ会議、対面会議を何度も何度も行った結果、最終的には「家庭の中の科学教育、親と子をつなぐためのモバイル・ユビキタス技術」というコンセプトに到達したのですが、1年目はコンセプトの構築と破壊を繰り返した1年でした。このコンセプトだけ見ますと無駄にも思える1年間なのですが、じつはこの1年間でプロジェクトの成否を決める重要な分岐点だったと思います。「コンセプトメイキングが大事だ」とよく言われますが、研究が終了した現在から振り返ってみて、そのことを実感しています。

2. 研究終了後に考えていること

ところで、私は、「おやこ de サイエンス」プロジェクトに理科教育の専門家として参加しまし

た。この理科教育の専門家という意識が、研究終了後に私が考えていることに関係しています。プロジェクトの最初は、自分が理科教育の専門家であることをさほど意識はしていませんでした。プロジェクトを進めていく中で、徐々にそういう意識を持つようになったのです。プロジェクトの2年目以降、システム及びコンテンツの開発・実施・評価を進めるに際して、当初のメンバーに加えて、さまざまな専門家の方々がメンバーに参加するようになりました。携帯電話の技術的な専門家、映像制作の専門家、ワークショップの専門家、科学実験の専門家、それから家庭教育支援の専門家などの方々です。こうした方々とお会いするたびに、私は理科教育の専門家として紹介されますし、一緒に研究を進める中で、私は理科教育の専門家としての立場からプロジェクトに貢献するように求められます。つまり、異なる専門家の方々という他者から理科教育の専門家として見られることを通して、「ああ、自分の専門は理科教育なんだ」という自覚を強めていったわけです。

プロジェクトは2007年3月に終了しました。その後、私が考えていることは、理科教育という自分の専門分野に関する「知の流通」です。もちろん、理科教育と一口にいても、そこには様々な専門領域があります。ですので、実際には、理科教育という分野において自分が関与している専門領域だけなのですが、その領域の内側と外側でどのような知をいかに流通させることができるのか、そのような流通が専門領域、理科教育という研究分野全体、あるいは理科教育に関わる事項全般の活性化にどのように寄与できるのか、ということを考えています。

まず手始めに、自分が関与してきた専門領域について何が「既知」で、何が「未知」なのかを整理する必要があるでしょう。その上で、既知の事項を外側に向けてどのように「輸出」するのか、未知の問いを解決するのに外側にある知をいかに「輸入」するのかを検討することも重要になるでしょう。こうした試みを通して、今後も日本科学教育学会に貢献したいと思っています。

引用文献

- BEAT (2006) 「「おやこ de サイエンス」: そのインパクト」 http://www.beatiii.jp/seminar/020_2.html
- BEAT (2008) 「東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術学講座」 <http://www.beatiii.jp/>
- 中原 淳・山口悦司・西森年寿・望月俊男 (2006) 「BEAT 研究成果報告「おやこ de サイエンス」: ケータイを活用して親子の学びを支援する」 Benesse 教育研究開発センター『BERD』第5号, pp. 36-40. <http://benesse.jp/berd/center/open/berd/2006/07/pdf/07berd_08.pdf>
- 中原 淳・山口悦司・西森年寿・望月俊男・中野真依・古田 豊・関根聖二・大房潤一・滝川洋二・山内祐平 (2007) 「おやこ de サイエンス: 携帯電話を活用した「実験をベースにした科学教育プログラム」の開発」教育システム情報学会『教育システム情報学会誌』第24巻, 第3号, pp. 155-166.
- 山口悦司・中原 淳・西森年寿・望月俊男・中野真依・古田 豊・関根聖二・大房潤一・滝川洋二・山内祐平 (2006) 「おやこ de サイエンス: 家庭における科学の学習環境の充実を支援する教育プログラム」日本科学教育学会『科学教育研究』第30巻, 第3号, pp. 145-158.

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第189号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 web サイトにある「お問い合わせ」(web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事: 東原義訓 (信州大) 荻原 彰 (三重大)
 委員: 中山 迅 (宮崎大) 丹沢哲郎 (静岡大) 小倉 康 (国立教育政策研)
 渡辺政隆 (科学技術政策研) 久保田善彦 (上越教育大) 二宮裕之 (埼玉大)
 加藤久恵 (兵庫教育大) 平野俊英 (愛知教育大)
 幹 事: 福井智紀 (麻布大)

科学教育研究レター 編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL: <http://www.jsse.jp>

※ 事務局の連絡先等が変更になりました。※

□事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内

□事務支局 (入退会・会費・学会誌発送関連) TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662

E-mail: jsse@nacos.com

中西印刷 (株) 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□編集事務局 (論文投稿・査読編集)

TEL: 075-415-3155 FAX: 075-417-2050

E-mail: jsse-hen@nacos.com

中西印刷 (株) 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座: 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座: みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会